

## 多摩のくらし～歳時記

### ～彼岸と彼岸会～

日本では、古くから極楽浄土は西方の彼方にあると信じられてきました。そこで太陽が真東から昇り真西に沈む春分と秋分の日に、お浄土に思いを馳せて彼岸会が行われるようになったそうです。そもそも彼岸とは、迷いを離れた悟りの世界、涅槃の境地（生死を超越した理想の境地）を意味し、春分の日、秋分の日を中心とする各7日間をいいます。春分、秋分の日には太陽が天の赤道にあり、真東から出て真西に沈み昼夜はほぼ同時間になりますが、光の屈折現象のため昼の方がやや長いそうです。

亡くなられて初めての彼岸を初彼岸といい、親族や、事情により通夜や葬儀でお別れのできなかった人などがお参りに行きます。現在ではお墓参りなどが広く行われ、日本独自の習俗が仏教と結びついたものと考えられます。

俳句では単に彼岸といえば春彼岸のことで、秋の彼岸は秋彼岸、または後の彼岸と言われています。彼岸の入り、明けの7日間は「暑さ寒さも彼岸まで」「入りばたもちに明けだんご、中の中日あずき飯」などと言われ、お菓子屋さんにはお彼岸中は、彼岸だんごとぼたもちが切らず売られています。あずき飯は普通のごはん（粳米）に小豆で炊くのですが、現在ではほとんどお赤飯をお供えしているようです。春の彼岸は、ぼたんの花が咲くので、ぼたもちといい、秋は萩の花が咲く頃で、おはぎと呼び分けていると言われ、家庭では、菜の花のごま和えとか、高野豆腐、しいたけの煮物など農家でつくられた食材でお供えし、お彼岸参りのお客さまを接待します。

歳時記は、今回で連載10回を迎えることができました。毎回読んでいただいている方々に感謝申し上げます。これからもコツコツと地域の習慣や風習を皆さまに伝えていければ幸いです。（川口キン）



## 活動支援情報

市民活動支援拠点

『多摩区民活動・交流センター』のご案内

多摩区総合庁舎内及び生田出張所内に市民活動支援のための会議室や、印刷作業と簡単な打合せができる交流室が設けられています。ご活用ください。



### 【設備】

- 会議室：利用人数30人程度  
交流室
- ①打合せスペース：利用人数10人程度
- ②印刷・作業スペース：2色刷り印刷機（有料）他

### 【利用方法】

事前に団体登録が必要です。登録は多摩区役所地域振興課または生田出張所窓口にて随時受付。

### 【予約受付】

会議室と印刷・作業スペースの利用にはそれぞれ予約が必要です。受付は下記の方法があります。



- ①予約受付簿記入：利用したい施設の予約受付簿に直接記入のこと。
- ②電話の場合：毎月第1・第3月曜日の午前10時から午後1時まで下記へ申込みのこと。

【予約専用電話番号】044-935-3108

【問合せ】区役所地域振興課

電話 044-935-3132 / FAX 044-935-3391

多摩区観光ガイドブック「はなもす」

最新版を好評配布中!

この度多摩区観光推進協議会が、区内の見どころスポットなどを満載した観光ガイドブック「はなもす」を発行しました。生田緑地や今注目の人気店など魅力的なスポットを多数紹介し、地元の人がおすすめる名物やスイーツなどグルメ情報も満載です。区役所、出張所、各行政サービスコーナーで配布していますので、ぜひ手にとってご覧ください。また、4月上旬にはガイドマップも発行します。こちらもお楽しみに!



多摩区の情報が満載!

【問合せ】区役所地域振興課

電話 044-935-3239 / FAX 044-935-3391

## 編集後記



今回のまちカツ!で、多摩区内にまちづくりに携わっているさまざまな活動団体の存在を知りました。自然環境保護、子育て支援、高齢者支援、観光推進、地球温暖化防止、食生活改善、地域教育など、じつに多岐にわたります。ただ、同じような分野と思われる団体がそれぞれに独自の動きをしているため互いの活動が見えにくいのではと感じます。相手を知り相互に協力し合えば、さらに効果的なまちづくりにつながるのではないのでしょうか。今回のまちカツ!を機に、その機運が生まれることを期待したいものです。（大久保）

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みは「まちカツ!」へお願いします。  
【事務局】TEL 4-8070700  
多摩区役所地域振興課  
まちづくり推進係  
電話 044-935-3148  
FAX 044-935-3391  
メール 77tshn@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

# 私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2012年 (平成24年) 3月

35号

## まちカツ! 盛況裏に幕

平成23年度の多摩区まちづくり協議会の活動発表会（まちカツ!）を開催しました。今年は、第1部で田園調布学園大学人間福祉学部の村井祐一教授に、「元気のいいまちづくり～地域を知れば仲間ができる～」と題して講演をいただきました。第2部では、3つのプロジェクトによるまちづくり活動の報告と、多摩区内のさまざまな市民活動団体によるポスターセッションを行いました。



満員御礼! 約100名が集まり賑わう会場

### まちづくり活動の認知度高まる

来場者の皆さまは、各プロジェクトの報告を受け、まちづくり活動の認識を新たにさせていただいたことと思います。ポスターセッションでは、17団体の活動発表により参加者との活発な交流が生まれ、多摩区のまちづくりの全体像が垣間見えてきました。

登戸駅の連絡通路に宣伝用のフラッグを掲出したり、広報誌やチラシによる事前のPR効果もあり、約100名のご来場者を迎え、大盛況裏に幕を閉じました。

### 元気のいいまちづくり～地域を知れば仲間ができる～（講演会より）

昨年3月の東日本大震災の後、誰もが人と人の絆の大切さを感じているなか、実にタイムリーな講演でした。村井祐一教授には、「日常生活が便利になった反面、人と人のつながりが希薄化し、身近なところで多くの課題

が生じている。その課題に気がつき、それを解決するのは、住民自身でしかない。まちづくりの目的は、誰もが住み慣れた家庭や地域で生きがいを持ち、安心して、普通に暮らしていけるよう互いに支え合うコミュニティを実現すること。そのためには多様な活動団体が連携して頼り頼られる関係を築くことが大切。まちカツ!のように互いに交流の場を増やし成果を発表することは、連携の機会の醸成と互いを元気にする。」とご自身のまちづくり活動の経験をもとに、ちょっとしたコツを伝授いただきました。参加者の皆さまも大いに共感を得られたようでした。



講演者の村井祐一先生



# 地域活動団体のポスターセッション&ポスター展示

## 10日間のポスター展示

区役所本庁舎1階のアトリウムでは、2月10日（金）から2月20日（月）まで活動団体のポスター展示を行いました。今年は前年比倍増の28団体に協力いただき大変賑やかな展示でした。来庁者の方々も各団体のさまざまな活動ぶりを興味深げに見入っていました。



28活動団体の協力によるポスター展示

## 活発な交流が生まれたポスターセッション

「まちカツ!」当日のポスターセッションには、17団体に参加いただきました。まずそれぞれのポスターを背に、団体関係者自らによる、活動内容の発表が行われました。団体が一堂に会する機会が少ないせいか、発表の時間はわずか2分でしたが、競うような熱心な説明に参加者の活発な質問が入り混じり会場内は熱気溢れる雰囲気でした。参加団体同志はもちろんのこと、一般区民の方々もさまざまな団体の多様な活動状況を知る機会となり、今後の連携につながる予感される内容でした。



3つのグループに分かれ  
まずは各団体2分間の発表

## 活動展示にご協力いただいた団体

- 川崎市オストミー協会
- 川崎市地球温暖化防止活動センター
- 川崎市地球温暖化防止活動センター・ソーラーチーム
- インターネット川崎ガイド
- 多摩区観光推進協議会
- 多摩区食生活改善推進委員連絡協議会
- 多摩区でプレーパークをやっちゃおう会
- 向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会
- 多摩区役所コンテナ花壇の会
- 多摩区老人クラブ連合会
- 地域教育会議
- ままとんきっず（まめな人生）
- クローバーの会
- 長尾台コミュニティ交通導入推進協議会
- おさかなポストの会
- ガサガサ水辺の移動水族館
- いきものふれあい教室
- 多摩×2（たまソー）
- たまキッズ
- たまザーもも倶楽部
- たま文化財ボランティアの会
- ハートフルクローバー
- ラブアンドピース
- 炉端の会
- のぼりとゆうえん隊
- ぐらすかわさき
- 地域通貨たま
- かわさきの安全でおいしい水道水を守る会



1グループの発表が終わるごとに約10分間の自由な交流タイム



## まち協のホームページができました!

多摩区まちづくり協議会の情報発信・交換のため、昨年12月に新しいホームページを開設しました。まち協の普段の活動や最新情報、広報紙の紹介のほか、各プロジェクトの情報もブログで発信しています。是非一度ご覧いただければ幸いです。

URL : <http://tamaku-machikyo.com>

## 多摩区まちづくり協議会

# 第2期の活動を終えて



本多正典会長

多摩区まちづくり協議会第2期の活動終了にあたり、ご挨拶申し上げます。昨年3月の東日本大震災で被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。第1期では、組織の簡素化による意思決定の迅速化と活動テーマの硬直化を防ぐために、プロジェクト制を導入しました。そして第2期では、1期の変革を基盤に、まち協の活動が区民や活動団体の皆さまへさらに浸透していくために、次の2つの目標を掲げました。

### ①開かれたまち協の活動及び運営

### ②新しい活動への取り組み

例えばまち協が開催するイベントには区民の参加を呼びかけ、多摩区内各種地域イベントには積極的に参加をいたしました。一方で委員やメンバーの人達が、楽しく活動できる“場”づくりに努めました。これらがまち協の更なる発展につながるものと確信しています。

最後になりましたが、2年間の活動に感謝すると共に、今後ともまちづくり活動にご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 多摩区まちづくり協議会の活動実績

多摩区まちづくり協議会の活動は、まちの課題を、区民と行政が協働で解決していくことだけでなく、多くの区民とその情報を共有することでもあります。活動には、まち協自身の取り組みと、**3つのプロジェクト**（P4～7でご紹介）の取り組みがあります。前者の活動には各種会議の他に、

- ①まちカツ! ②たまサロン ③多摩★まち大学 ④広報紙 ⑤ホームページ（P2でご紹介）

などがあります。またこのほか、地域との連携強化を図り、まち協への理解をより深めていただく努力をしてまいりました。



### 多摩★まち大学の開講

地域の民学産公と連携し、区民や活動団体に生活やボランティアに関する学びの場を提供することにしました。昨年7月から4回講座を開き、約100人の参加がありました。講師には世田谷社の市川徹さんや医師の国保先生、のぼりとゆうえん隊の野仲さんと桜井さんなど、地域で活躍されている方々にお願いしました。他都市視察研修会は練馬区と三鷹市の事例見学に行きました。



### まちカツ!の開催

まち協の活動発表と同時に、中間支援活動の一つとして今年も区役所1階アトリウムで28団体のポスター展示を行い、ポスターセッションで相互交流を図りました。



### たまサロンの開催

区民や団体との交流を兼ねて、まちの課題について意見交換し、その結果は第3期の活動テーマの選考に役立ちました。



子どもから大人まで、いろいろな世代の人たちと集い合う”場”をつくり、出会いたいと活動しています。そして、困った時に「手を貸して」と言い合えるような、人と人の絆を深めて、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。



久野代表

第2期を振り返ってみて

世代間交流の「助け合い・橋渡し」活動は、菅子ども文化センターと菅小、東菅小のわくわくプラザから、他の子ども文化センターやすかいきっず、わくわくプラザへと徐々に広がってきました。生田中学校の文化体験教室は「また来年も」と期待されるようになりました。

コミュニティサロンは、回を重ねることにより参加者とも顔見知りになり、声を掛け合う機会も増えています。

まち協広報紙や「ふらっとだより」を見て、あるいはクチコミで、「こちらでもやって欲しい」という要望も増えてきています。特に、子育て世代や子どもたちと地域の高齢者とのかかわりによる温もりやその必要性が求められていますが、それには一緒に活動する人手が足りません。

より多くの元気な高齢者の手が、世代間コミュニティの場面に向けられるような仕組み作りが必要になってきました。

活動で得たもの、得られるものは何ですか？

○一人ぼっちでの子育てにストレスを抱える若いママさんは、「地域の人とのひと時の交流ができるだけでも、ほっとする」と言って喜んでくれました。そんな時は、活動していて良かったと思えました。この活動は、今後も続けて広げていくことに意義があると思えます。

○全くつながりのなかった多くの人たちを知り、一緒に活動することの面白さ、楽しさを味わうと同時に、物事を決める難しさを知りました。一方孫の年ごろの子どもたちとの会話や昔遊びなどを通して元気をもらいながら、わずかでもお役に立っているのかなあという実感が得られました。

反省点・課題・問題点はありましたか？

○実活動メンバーが少ないことです。本当に世代間交流の活動をしたい、時間があるという

人を、いかに主体的な協力者にしていくか、活動することが楽しいと感じて参加してもらえるように持っていけるかが課題です。

○私は本プロジェクトの立ち上げから参加をしています。社会から求められている活動だと自負して4年が過ぎました。委員やメンバーが自主独立を目標に活動の5本柱を精力的にこなしてきました。しかし自主独立の青写真を描けても、中々テイクオフができない。志を一つにする仲間の結集が求められます。

今後の抱負を教えてください。

○プロジェクトの自主独立を目指して、仲間を増やし、活動の輪を広げていきたい。

○プロジェクトの一番の目的は、メンバー一人一人が楽しく活動することです。そして無理せず、自分の状況にあわせて参加することです。皆が少しずつ時間を割き、手を貸し、足を運びました。1期からの4年間、世代を超

えた多くの人と出会い、いろいろな場所で活動できたのは、仲間と一緒にだったからと強く感じています。この結びつきを多くの人と持ちたいと思います。

第2期の活動概要  
(平成22年4月～24年3月)

○メンバー構成	
・まちづくり協議会委員	8人
・プロジェクトメンバー	9人
○プロジェクト会議回数	24回
○広報紙発行回数	5回
○「ふらっと」開催回数	15回
○コミュニティサロン回数	15回
○わくわくプラザ協力回数	18回
○生田中学校文化体験教室	2回

人と人とのつながりを大切にしながら(第2期の活動報告)

ほっとできる快い”場”づくり

★「多摩の居場所ふらっと」の開催

毎月第4日曜日 午後1時  
あうん介護センター

★コミュニティサロンの開催

イベントによる世代を超えた地域の人たちとの交流  
バラ苑の散歩・絵手紙づくりなど



23年度最後のサロンはおひなさまの貼り絵でした

サロン名	サロン名	サロン名
1 生田緑地散歩と岡本太郎美術館鑑賞	10 井戸端会議	19 舞はじめ II
2 生田緑地ばら苑のお散歩	11 昔遊びを楽しもう・世代間交流	20 季節の花めぐり II
3 ホタル観察と納涼	12 井戸端会議 II	21 季節の花めぐり III
4 “MY” うちでエコ	13 子どもたちのことをよく知りましょう	22 セブさまのお話とうちづくり
5 ボランティア見学	14 季節の花めぐり	23 自然観察会 II
6 認知症と認知症予防について	15 あなたの笑顔がいちばん!	24 あなたの笑顔がいちばん! II
7 生田中文化体験教室	16 楽しい絵手紙づくり	25 まちのみんなで★お楽しみ会 II
8 安心して歳をかさねるために	17 自然観察会	26 てづくりのおひなざり
9 舞はじめ	18 まちのみんなで★お楽しみ会	

助け合い・橋渡し

★手助けが欲しい人と手助けをしたい人とを結ぶ橋渡し

★他の団体やグループと協力し合って地域と密着した活動を行う

わくわくプラザ、菅子ども文化センター、すかいきっず、生田中学校など



わくわくプラザで紙芝居



中学生と蒸しパンづくり



折り紙で作ったクリスマスツリー

他団体との連携・ネットワークづくり

★他グループ・団体の見学や意見交換を行ったり、連携し合うことで、活動の幅を広げる

★広報紙を発行し、他団体などとのネットワークをつなぎ、情報の発信を行う

多摩区観光推進協議会、区民会議、菅高ボランティアメッセなど



企業の地域貢献事業「カフェマイ」を見学



菅高校ボランティアメッセ



区民会議との連携・ヨガに挑戦

よりよい活動のための学び

★地元で活躍・活動している方を招いての勉強会「車座勉強会」を開催

★これまでの講師：

ケア・マネージャー、地域包括支援センター、幼児教育者、医師、小・中学校教諭、町会長など



食生活とがんの予防について

車座勉強会	
I	都市型コミュニティに必要なものは
II	安心して歳をかさねるためにII ケアマネからみた高齢者の実態
III	安心して歳をかさねるためにIII 地域包括支援センターの役割
IV	子どもたちのことをよく知りましょうII 親同士のつながりはどうか
V	安心して歳をかさねるためにIV 生活習慣病(がん)の予防と治療



ある日の「ふらっと」風景



ホットケーキの出来上がり!



自然観察会 何が見えるのかな?



# 多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり

## マップづくりプロジェクトの総決算

### 活動のきっかけは何ですか？

豊かな自然とその恵みの中で、農産物直売所と心癒されるスポットを探し、新しい魅力ある地域の活性化につながればとマップづくり活動を始めました。

多摩区では、生産者の皆さまの工夫により、その季節ごとに味と鮮度が自慢の採れたて野菜や果物が並ぶ農産物直売所が賑わいを見せています。生産に携わる皆さまが精魂込めて作り上げた自慢の品々を皆さまに知っていただきたいとの思いで取材をしました。

また、町中にある神社、川のほとりのふっとした風景など地域の癒しのスポットを求め、区内を9ブロックに分けて表示した結果、まだまだ掲載したい場所もありましたがほぼ全域を網羅することができました。

### マップのポイントは？

今回の取材は、アンケートに

応じていただいた生産者を中心とし、そこにメンバーが訪問し、独自に取材を行いました。活動メンバー数、関係団体との連携も考慮に入れて活動ができれば、地域の特長、名産品についてもより詳しく触れることができましたかもしれません。農業について地産地消を取り上げれば関係が多方面に及び、まだまだ奥の深いテーマで取り組み方もさまざまと思われる。

取材することで、農業関係者とつながりができましたが、同時に都市化や高齢化、後継者不足などの農業における課題も感じました。

### 見どころを教えてください。

できあがった「多摩農マップ」を手にとりページをめくると、都市化が進む多摩区ではありますが、緑豊かな農のある今の姿が映し出されているようです。また、23年8月には登戸駅を中心に、中野島方面と宿河原・久地方面へ



安陪修司代表



### 第2期の活動概要 (平成22年4月～24年3月)

○メンバー構成	
・まちづくり協議会委員	6人
・プロジェクトメンバー	5人
○プロジェクト会議回数	12回
○農マップを使ってまちあるき	1回
○農マップ第1版、第2版の2回発行	
○農マップを楽しむ散策ルート	1回発行



散策ルート上にある二ヶ領用水

の二つのルート設定で、散策コースを紹介しております。ご自身でも是非散策コースを参考に、お近くを回ってください。

### 今後の抱負を教えてください。

このマップを持って梨園巡りしているグループにも出会いました。あちこちのイベントに参加し「農マップ」を配布した結果かな！と実感しています。

生産者の顔が分かる新鮮で安全な農産物直売所に買い物に、素敵な自然や景観の場所を見つけに、このマップを利用していただければ幸いです。

好評につき第二版を発行した「多摩農マップ」

# まちづくりネットワーク応援隊

## 施設マップや学習会などで地域に貢献

### 活動のねらい

まちづくりネットワーク応援隊は、市民活動・ボランティア団体に役立つ情報提供・場(交流会・学習会)づくりなどの支援を目標として、活動を始めました。

### 平成22年度の成果

平成22年度は、活動拠点に役立つと思われる「多摩区コミュニティ施設マップ」を作成しました。また、マップに掲載した施設で実際に「出前たまサロン」を行い、施設の使い勝手を知ると同時に他団体、区民や学生と意見交換をし、私たち自身が多摩区の課題を知る良い機会になりました。

### 平成23年度の成果

平成23年度前半は、民家園通り商店会の夏祭りに参加し、

東日本大震災被災者のお役に立ちたいと思い、支援金集めと「ともしび集会」を開催しました。準備期間が短かったのですが、チームとして頑張ったおかげで、わずかですが東北地方に支援金を送り、お越しいただいた皆さまに美しい歌声を届けることができました。

後半では、多摩★まち大学の企画を活用し、出前たまサロンで課題となったこと、活動する上で必要だと感じていたことから、IT学習会を開催しました。インターネットの知識や技術は、個人や活動団体に大きな支援となります。アンケートで、「また、開催して欲しい」というお言葉をいただきました。

### 第2期を振り返ってみて

2年間を振り返ってみると、活動の方向性を具体化しメンバー全員が共通理解するまでに時間を要しました。公募され



井上清代表



### 第2期の活動概要 (平成22年4月～24年3月)

○メンバー構成	
・まちづくり協議会委員	8人
・プロジェクトメンバー	4人
○プロジェクト会議回数	41回
○出前たまサロン	2回
○ともしび集会	1回
○IT学習会	2回



多摩★まち大学の企画として「IT学習会」を開催

た人の集まりでスタートするまち協の活動では、どのような方法で活動目標を達成するのかについて、最初にかなり具体的な部分まで煮詰めておくことが大切です。また、お互いに時間の有効利用を図りながらの活動が求められたため、メール交換やネット検索に関して私たち自身のIT能力を向上させることが必要でした。

しかし20代から70代の男女が、肩書・年齢など無関係に知恵を出し合い行動したことは、良き友人・知人を多摩区内に増やす絶好の機会でした。この最良の区民交流の場に、新たな人が加わることを願っています。



東日本大震災の被災者に向けた支援金を集めた「ともしび集会」